

R01年度自己評価表

青翔開智中学校・高等学校

建学の精神からなる本校の中長期目標	今年度の重点目標
<p>「探究」複雑な課題を高い創造力によって解決する取り組みを「探究」と定義し「探究できる人材」の育成を推進する。さらに文科省SSH校(指定期間H30～H35)として探究カリキュラムの開発を進めるとともに本校の探究活動を県内外へ発信・普及させる。</p> <p>「共成」共に成長する力を育成する教育をグローバル・ダイバーシティ教育と位置づける。グローバル・ダイバーシティ教育では多様性の理解を進め、英語を道具として場所や相手を選ばずに成長できる人材の育成を進める。</p> <p>「飛躍」自分とは何かを問い続け、好きなこと・得意なこと・社会が求めること・価値観を追求することにより、進路をデザインし実現する。</p> <p>さらに、探究活動を下支えするICT及び図書環境を充実させ探究を後押しするとともに、生徒と教職員が主役となり、保護者からの協力が絶えない学校創りを目指す。</p>	<p>1、通常授業における図書館利用学習のさらなる推進と探究のルーブリック評価の開発。</p> <p>2、多様性理解に向けた行事の実行と英語力向上のための授業開発。</p> <p>3、海外大学への興味関心の向上と理解促進。偏差値に偏らない進路デザインとその実現。</p> <p>4、上記を円滑かつ効果的に推進するためICTおよび図書環境の充実と支援の体系化。</p> <p>5、生徒と教職員のやりたいことを重視した学校運営。保護者の行事参加率の一層の向上。</p>

年度当初				評価結果(年度末)	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	自己評価および次年度の主な課題
重点目標1に対応	「探究」 探究学習・SSH	A. 「探究」を評価するルーブリックの開発 B. 探究の成果向上のためのスキルを身につける	A. 探究学習を評価するルーブリックを探究委員で協議し作成する。 B. 探究の成果向上のためのスキルを身につける授業を図書館利用学習と位置づけ、各通常授業で展開する。	A. 探究ルーブリック完成の有無を評価基準とする。 B. 各教員の図書館ルーブリックを用いた図書館利用学習の実施率を評価とし全員教員実施を目指す。	
重点目標2に対応	「共成」 グローバル・ダイバーシティ教育	A. 英語や多様性に対する苦手意識を取り払いグローバルに向かう姿勢を整える。 B. 英語4技能の育成を推進し英語をツールとして活用できる人材を育成する。 C. 多様性とは何かを自分の考えで意見できる人材を育成する。	A. 英語イベントの実施や海外留学生の受け入れを積極的におこない、海外と生徒の接点を多くもつ機会を作る。昨年度を上回るため特に中学1・2生のイベントを開発する。 B. 外部英語試験を推奨し、試験合格に向けて具体的な対策講座を学内で開講する。特に中3以上の取得率の向上を目指す。 C. 各学年にて多様性の理解を促進する行事を企画し実行する。高校生については外部入学も考慮しながら行事を計画する。	A. 行事への生徒の年間参加率と満足度を評価基準とする。 B. 各学年で目標級を決め、その合格率を評価基準とする。 C. 各学年にて行事の実施状況を評価基準とする。	
重点目標3に対応	「飛躍」 キャリア教育	A. やりたいことから目標を設定し実行できる人材の育成。 B. 国内大学だけでなく海外大学進学への興味関心を向上させる C. 探究活動やグローバル教育をとおし、将来のビジョンを明確にした進路を考える生徒を育成する。 D. 選択した進路を実現する。	A. やりたいことを目標設定し実行する仕組みに対して、フィードバックを得る機会の構築。 B. 海外大学に関する行事を多数企画し生徒たちの参加を募る。 C. 探究部と進路部が連携し、探究学習の結果を活用した個別の進路指導をおこなう。 D. 予備校などの外部講師とも連携し進学のための学力向上を目指す。	A. やりたいことを基準に作成した目標のフィードバックを得る機会をもてたかどうかを評価とする。 B. 生徒の参加率と参加生徒の海外大学への進学希望度アンケート結果を評価基準とする。海外進学希望者数の割合が中学生5%、高校生10%を目指す。 C. 卒業時の進学アンケートにおける卒業生及び保護者の進路満足度を評価基準とする。 D. 卒業時の進学アンケートにおける卒業生及び保護者の進路実現度を評価基準とする。	
重点目標4に対応	ICT・図書環境	A. ICT機器の高度な利活用を全校生徒が実践できる環境作り。 B. 各授業における先進的なICT活用の実践。 C. 探究活動やSSH事業を支援する学校図書館の整備	A. 教員とICT委員会が中心となりICT機器利用のガイドブックなどを作成し共有を図る。 B. 各教員の取組みのガイドブックを作成し共有する。 C. 自然科学分野、総記(情報科学)、英語多読に関連する資料を拡充する。	A. ガイドブックの作成進捗度を評価基準とする。 B. ガイドブックの作成進捗度を評価基準とする。 C. 資料の導入実績を評価基準とする。	
重点目標5に対応	学校創造	A. やりたいことを行うための最低限のルールの見える化と共有 B. FTAのワーキンググループ活動の活性化	A. 建学の精神や生徒会ルールなどを見える化し学内掲示や学校HPなどで共有する。共有情報の理解度を測るための調査を実施する。 B. FTAから参加の呼びかけを行い活動への参加者増を狙う。総会や懇親会を除くワーキング活動への参加増を目指す。	A. 全校生徒のルール理解度を評価基準とする。 B. 各家庭からワーキング活動へ年間2回の参加を目指す。	

評価基準 = A:ほぼ達成(8割以上) B:概ね達成(6割以上) C:変化の兆し(4割以上) D:不十分(4割未満)